

第3回 鎌倉大根収穫祭が鎌倉市佐助自治会館と佐助稲荷神社で開催された。

総務省地域力創造アドバイザー 大竹道茂。

2015年から始まった鎌倉時代に一時栽培された鎌倉の大根探しは、鎌倉市民によって発見され、以後活動は広がりを見せている。

これまでは、鎌倉市佐助の大根料理の店「福来鳥」で開催してきたが、純粋な鎌倉の市民活動としていくために、第3回 鎌倉大根収穫祭が鎌倉市佐助自治会館と佐助稲荷神社で11月26日(日)開催された。



佐助稲荷神社にて、前列左から3人目筆者

第1回から、ゲストティーチャーとして、指導されている神奈川県農業技術センターの原康明研究課長〈三浦半島地区事務所〉と、ハマダイコンの商品化を積極的に進めている島根大学植物育種学研究室の小林伸雄教授もご夫妻でお越しになった。

また、神奈川県種苗協同組合の成松次郎技術顧問も時間を割いてご参加いただき、情報の共有化がはかられた。



午前の部「鎌倉大根を知ろう」は福来鳥の名和清香さんの司会進行により佐助自治会館で行われた。

佐助稲荷神社境内に掲示されている「源十郎・弥十郎」にある大根の故事を、参詣者は興味深く読んでいた。(別掲)

故事は、鎌倉時代の寛元年間、鎌倉の佐助谷と由比ヶ浜がステージになっている。

鎌倉大根はハマダイコンで、鎌倉時代に鎌倉の地で一時栽培された大根に付けた商品名だ。

2015年に開催された鎌倉大根プランコンテストに招かれた講演で、神奈川の地方野菜として、「波多野大根」「三浦大根」「寺尾二年子大根」「横浜中部の中太り大根」を紹介したが、鎌倉時代の大根の話だからと「三浦半島のハマダイコン」の花咲く写真を紹介した。

写真を見たご参加の方からその花なら、葉山に・・・、由比ヶ浜にもハマダイコンが生えているとご紹介があった。

山形在来作物研究会会長の山形大学江頭宏昌教授によると、山形県鶴岡では野良大根(ハマダイコンと同種)と云われるものが内陸に生えているが、そこは縄文時代には海岸だったと云う。

由比ヶ浜の稲瀬川河口に建つ石碑には、平家を討つために旅立つ源範頼を由比ヶ浜で見送った兄頼朝の足元にハマダイコンが生えていたことは考えられる。

これまで栽培されていなかったハマダイコンを源十郎が栽培したが、その強い辛味成分イソチオシアネートが疫病に効いたわけだ。



原康明研究科長

神奈川県農業技術センターの原康明研究課長は、沖縄の島ダイコンに注目、沖縄の石垣島にまで出向いて調べたとか・・・、

ハマダイコンは、ロゼット状になることで根の部分か太ると云う。

沖縄の島ダイコンと由比ヶ浜のハマダイコンが似ているので、海流に乗ってたどり着いたのかもしれないと、ロマンあふれる話を紹介された。

現在、栽培を始めていて、自家不和合性についても紹介し、つぼみ受粉等わかりやすく説明された。



島根大学の小林伸雄教授

島根大学の小林伸雄教授は、島根の海岸に自生するハマダイコンに「出雲おろち大根」と名付けて商品開発を行っていて、出雲おろち大根の商品化には15回も繰り返し選抜してきた。

小林先生の話では、ゆっくりおろすと辛く、部位ではしっぽが辛いことから、初めは、地元「出雲そば」に使えないかと思ったが、保守的な業界で乗り気薄だったことから洋食にアプローチ、肉や乳製品との相性もよいことから、

新たな商品化に向けた研究が紹介されたが、すべてが興味深く、鎌倉大根としての方向性が見えてきたようだ。



成松次郎技術顧問

神奈川県種苗協同組合の成松次郎技術顧問は、今年発行した「かながわゆかりの野菜」に、鎌倉大根の復活プロジェクトが始まったことを掲載してあると紹介された。



午後からは、佐助稲荷神社に会場を移して、坂東流家元の坂東遥先生が、鎌倉大根にまつわる伝説から舞を創作して、境内で踊られた。

佐助稲荷神社の正式参拝をおこなったが、菊池晋介宮司の祝詞には鎌倉大根の収穫祭を書き込んでいただいた。



引き続き行われた品評会では、
原審査委員長から各賞が授与された。

『鎌倉市長賞』	長石美紀さん、	『美しくなりま賞』	野口稔さん
『発展協力賞』	山口勉さん、	『審査委員長賞』	笹野祐子さん

ブログ「江戸東京野菜通信」2017年11月30日を編集した。